やさしいくちづけ

maca

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
やさしいくちづけ

【Ｎコード】
Ｎ１１４２Ｍ

【作者名】
ｍａｃａ

【あらすじ】
眩暈がしそうなほど幸福な時間。
それを与えてくれるのは、愛しい彼でした。

愛していると、思った。
たとえば、穏やかな瞳を隠すくらい長い黒髪を。
たとえば、低く優しい声を洩らして緩く微笑む唇を。
たとえば、私にキスをするときにすうっと屈む高い身長を。

「永見さん、キスして」

指先を絡めあうようにして繋がれた手を引いてそう口にすれば、一瞬戸惑ったように瞳を揺らしてから、いいよと彼は柔らかく微笑んだ。
人気のない住宅地の、橙色の道で私達の影は重なった。
彼のキスはいつも優しかった。
触れ合う寸前に彼は少しだけ止まって、それからそっと薄い唇を私のそれに重ねる。
1度だけ角度を変えて、空いた手で私の頬に触れて、ゆったりと髪を梳いて。
私がつけているリップのピンク色が彼の唇にも色を残して、それに気付かないまま永見さんは小さく笑う。
そんな姿が可愛くて、たまらなく愛おしく思えてしまう。

「好きだよ、志穂ちゃん」

やさしく甘く私の名前を呼んで、離れてしまった手をもう一度繋ぎなおす。
キスをした後の私達の距離はまた少し縮まって、触れ合う部分から互いの体温を共有する。
時折流れるひやりとした風すらも気にならないほど温かい。

幸せな温もりで、私の口元は自然に緩んでしまうのだ。

「もうすぐ、志穂ちゃんの家だよ」

「…うん」

帰りたくない、

永見さんと別れる瞬間はいつもそう思ってしまう。

そんな私の気持ちを知っているからか、永見さんも少し淋しそうに微笑んでくれる。

そうすると、ああ彼も同じ気持ちなんだ、って私の心は少しだけ弾む。

別れるのは淋しいけれど、彼がそうして笑ってくれるから、必ず次の約束をしてくれるから私は彼の手を離すことができる。

「着いたよ」

住み慣れた2階建ての一軒家の前で私達は立ち止まり、そっと見つめあう。

自然な動作で私は彼の胸に顔を埋めて、彼も私の背中に手を回す。

すっぽりと身体が包み込まれてしまうこの感触が私は好きだった。

「次はいつ会おうか」

「すぐ会いたい…」

「じゃあ、また明日迎えにくるよ」

「うん」

短く言葉を交わして、それからもう一度あの優しいキスをしてから私達はそっと離れる。

別れの言葉は好きじゃない。

だから、私も彼も「また明日」そう言って手を振った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1142m/

やさしいくちづけ

2011年1月26日00時36分発行